

DATA：眼科／角膜センター・アイバンク

- 眼科専門医認定機構認定修練施設 ●平均外来患者数(日)：約85名
- 医師数：12名
- 主な対象疾患と治療法：**角膜疾患**：全層角膜移植、表層角膜移植、深層表層角膜移植、角膜内皮移植、角膜輪部移植、培養角膜上皮移植、培養口腔粘膜移植など **ドライアイ**：涙点プラグ、血清点眼など **白内障**：超音波乳化吸引術、水晶体嚢外摘出術、眼内レンズ挿入術 **緑内障**：薬物治療、線維柱帯切除術、線維柱帯切開術、レーザー虹彩切開術など **その他**：翼状片、円錐角膜、網膜レーザー治療、黄斑疾患に対する硝子体手術、抗VEGF剤硝子体注射、眼瞼痙攣に対するボトックス注射など

全国一の症例数を誇る施設

視力を失う原因には、糖尿病網膜症、緑内障などに加え、角膜疾患によるものがあげられます。その角膜疾患を原因とする失明に対しては、移植治療が大きな効果を発揮します。当科は、このような患者様の力となれるよう、角膜移植を中心とした前眼部病変を専門とする診療科として、設立以来常に研鑽を重ねてきました。

現在、常勤医12名、非常勤7名で年間約25,000人の外来と、2,000件を越す手術に対応しています。手術の半数は白内障で、残る件数はほぼ角膜に関するものです。常勤医12名中8名が角膜専門医であり、これだけの体制を持つ眼科は国内にはありません。また、角膜移植においては年間約250件、これまで5,300件以上の移植を行ってきたことから、全国一の症例数と充実したスタッフや医療機器を有する施設として、世界中に知られるようになりました。

移植を支える 「アイバンクコーディネーター」

この実績を支えるのが、併設された「角膜センター・アイバンク」です。

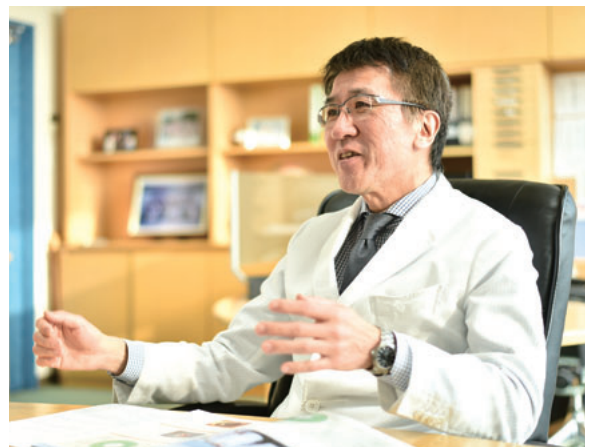
眼科設立当初、千葉県内での角膜提供数は年間数件程度でした。そこで、移植を必要とする多くの患者様の要望に応えるために、まず、よい角膜医療を提供できる体制を確立しようと、1993年に角膜センターを設立、1995年には「アイバンク」が認可されました。センター設立時は、角膜提供数が足りず、アメリカのアイバンクから角膜の提供を受け

世界レベルの角膜専門の眼科として

るなどしてきましたが、その後、国内の提供数も徐々に増加し、現在はほぼ半数が国内の提供で治療が進められるようになりました。この提供数の増加に大きな役割を果たしているのがアイバンクコーディネーターによる意思確認システムです。

従来のドナー登録では、提供にまで至るのは1%にも満たないといわれていますが、このシステムを採用してから当院での提供率は十数%を実現しています。このシステムでは、院内でお亡くなりになった患者様の情報がアイバンクに通知されます。医師、看護師からアイバンクに連絡が入ると、コーディネーターが直行し、現場にて患者様の角膜が提供可能な状態かどうかを医師に確認。その後、ご遺族に提供についての説明をします。全て当スタッフがコーディネーションすることで提供への理解が深まるものと思います。これらの角膜は、アイバンクにて公平・公正にあっせんしています。

また「角膜センター」には、海外からの角膜の手配、レシピエントのフォローアップなどの業務を行う角膜移植業務部門、臨床へのフィードバックを旨とした様々な研究を行う研究部門があります。研究部門における重要な取り組みのひとつは再生医療



角膜治療のスペシャリスト集団としての使命

眼科 /
角膜センター・
アイバンク

です。角膜周辺部に存在する幹細胞の障害により視力低下をきたした症例は、角膜移植では回復できません。これに対して幹細胞を含んだ組織や上皮シートを移植する技術の開発を進めています。また、角膜はいくつかの層に分かれているため、障害がある層だけを移植するという手技の開発にも取り組んでいます。術後の拒絶反応が少ないなど多くのメリットがあり、現在では、こうしたパーツ移植が3分の2を占めるまでになっています。

を治したい、学びたい、研究したい先生方が集まってきます。そうしたみなさまを「角膜フェロー」と呼んでいます。当科で数年の経験を積めば、どこかの病院でも角膜外来のチーフとしてやっていけるだけの実力がつくでしょう。

そして、当然のことながら多くの患者様と提供者、そしてそれぞれのご家族も集まってきます。こうした角膜移植にかかわるみなさまを結びつけ、さらに多くの方々に角膜移植について理解を深めてもらうため「ドナーファミリーの集い」や「ランフォービジョン」といった行事も行っています。光を取り戻す医療のあたたかさをひとりでも多くの方に感じていただけるよう、これからも力を尽くしてまいります。

開かれた診療科として…

角膜治療において世界の最先端をいく当科には、角膜

患者様紹介について

患者様によりよい医療を提供するために、地域の先生方と連携していきたいと考えています。また、角膜移植を必要としない角膜疾患、ドライアイ、翼状片、白内障などに対しても専門性の高い診療を行っていますので、普段の診療で気になる事がありましたら、様式にとらわれずお気軽にご連絡ください。また、開かれた診療科としての取り組みも連携、共有できたらと考えています。こうした取り組みを通して、全ての眼科・角膜疾患で悩む患者様に、必要とされる医療を提供することができれば幸いです。

information

市川リレーションシップカンファレンスを開催します

地域のみなさまに安心して医療を受けていただくための体制構築に向けた、東京歯科大学市川総合病院と地域の先生方を結ぶ新たな取り組み“市川リレーションシップカンファレンス”。紹介・逆紹介においてそれぞれの専門性を最大限に活かせるように、相互理解を目的としたカンファレンスです。

- ❖ 日程：平成28年9月5日(月)
- ❖ 時間：19:30～
- ❖ 場所：東京歯科大学市川総合病院 角膜センター 3階会議室

- 角膜移植について (島崎 潤)
- 我が国の移植医療について (青木 大)
- 角膜センター・アイバンクの役割 (佐々木 千秋)

みなさまのご参加、お待ちしております。



コーディネーター 青木 大 眼科 教授 島崎 潤 コーディネーター 佐々木 千秋 コーディネーター 西迫 宗大

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者様のご紹介などを円滑に行えるように、「地域連携・医療福祉室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

地域連携・医療福祉室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)